



ハンガリー政府観光局 ニュース 2009 年 6 月 23 日 No.164

- 付加価値税 25%へ改定
- 政観スタッフ山田、第一線を退く
- ブダ王宮ロイヤル・ワインハウス
- 韓国ドラマ「IRIS」撮影
- ブダペスト・ヘリコプターツアー
- 【コラム】ハンガリー見聞録その1

付加価値税 25%へ改定

2009 年 7 月 1 日から、付加価値税が 20%から 25%へ改定されます。

この改定により、公共交通機関の乗車券が改定される見通しです。なお、ホテル宿泊レートに関する税率は 18%に下がり、乳製品やパンなども同じ税率が適用されます。

ブダ王宮ロイヤル・ワインハウス

王宮の丘に新しいワインアトラクションが誕生しました。

ロイヤル・ワインハウスは、14 世紀からブダ王宮のワインセラーとして使われていたセラー内に広がるハンガリーワインの殿堂で、ワイン試飲を始め、ワインの歴史や文化の紹介、ワインや小物の販売など、ハウスオブハンガリアンワインに代わるワインに関するアトラクションです。

- 住所: Budapest Szent György tér
- アクセス: 市バス 16、16A、116 系統で Díszter 停留所下車、または王宮ケーブルカー
- 営業時間: 5 月から 9 月は毎日 12 時から 20 時まで、他の月は月曜休業 12 時から 20 時まで
- 入場料: 大人 900HUF
- HP: <http://www.kiralyiborok.com> (英語)



一方、このワインハウスに隣接するブダペスト歴史博物館、国立ダンス劇場は、ワインハウスと共にダンス公演、ワイン試飲、博物館入場料金が 20-25%割引となるパッケージチケットを発売しています。

- 「王宮の宝物」チケットの場合、ブダペスト歴史博物館＋ロイヤル・ワインハウス＋セラー博物館の組み合わせで、1,600HUF。
- 「ワインとダンス」チケットの場合、ロイヤル・ワインハウスとワイン博物館、国立ダンス劇場がセットとなりますが、ダンス公演により料金は変わります。

観光客にフレンドリーなこの企画は、国立美術館などを含め利便性が高められる計画です。

ブダペスト・ヘリコプターツアー

ヘリコプター遊覧飛行を手掛ける Helipest 社は今月から毎週末にマルギット島の Copacabana ヘリポートを離発着する市内・センテンドレ・ヴィシエグラード・エステルゴムへの遊覧飛行を開始しました。

機材は乗客 3 人が搭乗可能な米国製のロビンソン社の R44 で、マルギット島からの遊覧飛行料金は次の通りです。(料金は 6 月 22 日現在のもの)

ヘリコプター遊覧飛行料金

遊覧飛行コース	飛行時間	3人分の料金 HUF
ブダペスト市内	5分	21,000
ブダペスト市内	10分	36,000
ブダペスト+センテンドレ	20分	68,000
ブダペスト+ヴィシエグラード	35分	115,000
ブダペスト+エステルゴム	50分	162,000

- 問い合わせ: info@helipest.hu、Tel:+36-23-44-4604 Fax:+36-23-44-4605
- HP: <http://www.helipest.hu/> (日本語あり)

政観スタッフ山田、第一線を退く

ハンガリー政府観光局東京事務所の開設以来、12年にわたり皆様に政観の顔としてハンガリーをご紹介し続けてきた、政観スタッフ山田裕子(69歳)が今月末をもちまして第一線を退く事になりました。長年にわたる皆様のご好ぎに感謝いたします。

山田は、50年前の日本とハンガリーの国交回復当時からハンガリーとの縁ができ、東京オリンピック当時は日本人唯一のハンガリー語通訳として活躍したり、ハンガリー大使館商務部に勤務したりと、ハンガリーと日本の架け橋の一翼を担ってきました。その経歴が評価され2007年にはハンガリー政府から文化功労賞を授与されています。

いつも笑顔を忘れない明るい性格から、皆さんに親しまれてきた山田は第一線を退きますが、今後も不定期に勤務します。

韓国ドラマ「IRIS」撮影

韓国の人気俳優イ・ビョンホンが主演するドラマ「IRIS」の撮影がハンガリーで6月26日までの予定で行われています。

ブダペストの主な景勝地の他、バラトン湖周辺などでも撮影が行われており、今後の日本の番組放送が期待されます。

【コラム】ハンガリー見聞録その1

今回からペンネーム Irénさんのご協力によりハンガリー旅行のヒントとなるコラム記事を掲載させていただきます。

ペンネームのIrénとはハンガリー好きの著者の誕生日のネームデーです。

ニューズレターをお読みの皆さま、こんにちは。趣味『ハンガリー』のIrénと申します。こう名乗ってはおりますが、日本在住の日本人です。ハンガリー歴はまだ8年、合計滞在日数40日程度と、ひよっこではありますが、滞在を重ねるほどに私をどんどんひきつける、ハンガリーの素敵なあれこれについて、お話をさせていただければと思います。どうぞよろしくお願い致します。

その1 ドナウをのんびり川下り ①

今日は、観光シーズン真っ盛りな今この時期ならではの、『ドナウ川の船』のお話です。

ブダペストでドナウ川の船といえば、市街中心部の景観(と、ダンスやディナー)を楽しむものが浮かびます。でも今回お伝えしたいのは、ブダペストとセントンドレを結ぶものです。季節限定の運航で、ブダペスト発セントンドレ行きは 1.5 時間、セントンドレ発ブダペスト行きは 1 時間、緩い雰囲気です。今年 5 月上旬にセントンドレから乗ってみました。よく晴れて少々暑く、風が穏やかで「さあ船にお乗り」とドナウ川が呼んでいるような、まさしく船日和の夕刻午後 5 時発の船でした。

セントンドレの船乗り場は、ドナウ川沿いの大きな道路 Duna-corso に面し、白い大きな看板が出ていてすぐにわかります。その道路を挟んだ真向かいのレストランの門の中、右手にあるチケット売り場で料金を払うのですが…何故かそこには誰もいません…。レストランのお姉さんに、船でブダペストへ行きたいんですが…と話しかけると、ちょっと待っててね、と一言。その場にたたずむこと 3 分程、ようやくチケット売り場の主が船乗り場からゆっさゆっさと到着。その間、無人の売り場のカウンターのドアがバーンと開きっぱなしになっており、何とも言えない大らかさに脱帽でした。レジもそこにあるのに、バーン、ですよ…。

さて、ブダペストのヴィガドールまで、片道 1490Ft 払ってレシートを貰います。切符ではなく、レジから出てきたペラペラのレシートなのがかかなり惜しい…。

そして船乗り場へ向かうと、出発 20 分前にして既にデッキ席は満席状態。あちゃ〜出遅れたか…。入り口で、白いポロシャツが眩しいスタッフのお兄さんにレシートを見せると、端をちぎって戻してくれます。船室内の席はデッキ席とうって違って空席多し。船日和ですからデッキ人気は無理もないですね。でも船室内の席は陽焼けの心配もいらず、小さいながらも BUFEÉ もありますし、川面がすぐそばでゆったり落ち着いた感じが好ましかったので、ひとりで 6 人掛けの席を独占しちゃいました。

おっと、そろそろ字数いっぱいとなりました。出発してからのお話はまた次回に…。



セントンドレ船着場入口。英語も併記された看板に、ダイヤと料金も明記されています。階段を登るとドナウ川が眼下に広がります。



先ほどの階段を上って、ドナウ川を見ると、このように船が待っています。ちょっと見えにくいですが、デッキ席にはお客さんがわんさか乗っています。一体、何分ぐらい前から乗っていたのか…。